



ユキヤナギ（雪柳）。細い枝に小さな白い花が密集して咲く、春の可憐な花。

川野 信之

発行 一般社団法人 相模原市医師会

## 緑内障とは

### はじめに

視神経が障害されて視野（みえる範囲）が狭くなる病気です。中高年の失明の原因の第一位ともいわれ、40歳以上の20人に一人が緑内障といわれています。また、必ずしも遺伝する病気ではありませんが、血縁者に緑内障の方がいる場合は注意が必要です。

### 緑内障の原因は

眼圧の上昇などにより視神経が障害をうけます（図1）。眼圧とは目の硬さのことで、房水と目の中を循環する液体の産生と排出のバランスによって決まる圧力です。この房水は毛様体で作られ、隅角にあるシュレム管から血中に排出されます（図2）。

図1 眼圧の仕組み

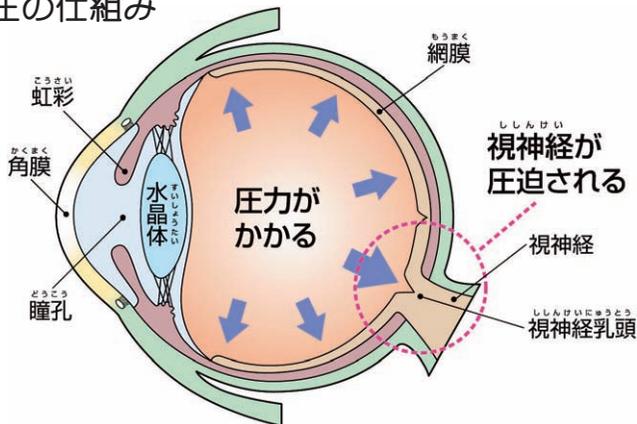
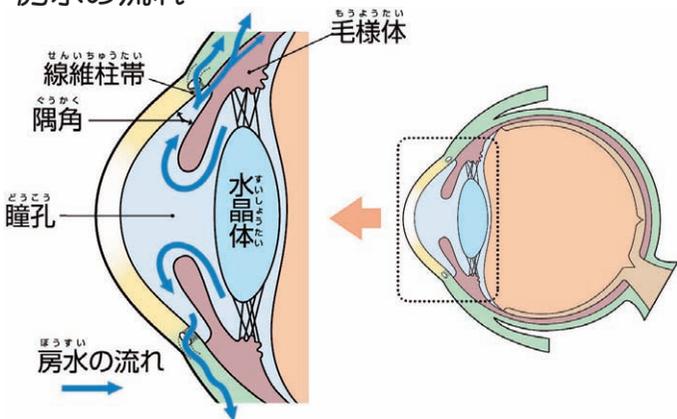


図2 房水の流れ



### 緑内障の種類

#### ●原発開放隅角緑内障

房水の出口である線維柱帯が徐々に目詰まりし、うまく房水が流出されないため眼圧が上昇すると考えられています。緑内障全体の8割を占めます。

#### ●原発閉塞隅角緑内障

隅角が狭くなり房水の流出が障害され眼圧が上昇するタイプで、急性発作の場合は眼痛、頭痛、吐き気など激しい症状が出現します。放置により失明する可能性が高いため、早めに眼科を受診することが重要です。頻度は1割です。

また、このタイプの緑内障の場合、風邪薬や鼻炎薬、せき止めなど抗コ

暖冬の予想に反した雪と寒さの季節から春らしい陽気となりました。

今月のテーマは、中高年の失明原因第一位の緑内障と小児には恐ろしい髄膜炎、肺炎に対する予防接種についてです。備えあれば憂いなし、どうかご参考にしてください。

リン剤と言われる薬は服用できません。医師に確認するようにしてください。

#### ●正常眼圧緑内障

眼圧が正常範囲にありながら視神経が障害されるタイプの緑内障で開放隅角緑内障に分類されます。また日本人には、この正常眼圧緑内障の頻度が非常に高いといわれています。

#### ●続発性緑内障

外傷、角膜の病気、目の炎症などほかの病気により二次的に眼圧上昇が起きるものです。頻度は1割です。

### 緑内障の検査

一般的な視力、眼圧、眼底検査に加え視野検査や画像検査（OCT）を行います。OCT検査とは光干渉断層計といい視神経と網膜神経線維層の厚み（網膜の断面）をみることができ検査のことです。

### 緑内障と診断されたら

治療の基本は、眼圧を下げることです。もともと眼圧が高くない人でも眼圧を下げることによって病気の進行を防ぎます。

まず点眼薬を中心とする薬物治療から始めます。点眼には房水の産生を抑えるもの、房水の排出を促すものなどがあり緑内障のタイプや眼圧によって組み合わせで使用します。

眼圧が十分に下がらない場合や視野障害が進行する場合は、レーザー治療や手術が行われます。レーザー治療は、房水が排出される部分（線維柱帯）にレーザーを照射し房水の流出を促進する方法です。

また手術には、線維柱帯の一部を取り除いて房水の出口を別に作る線維柱帯切除術と、目詰まりしている線維柱帯を切り開き本来の流出路であるシュレム管に房水を流す線維柱帯切開術が主に行われています。

### 自覚症状に乏しいので40歳以上の方は眼科受診を

緑内障は一般的に視力がいきなり悪くなることはありませんので、視野が狭くなっても気が付かず病気が進行してしまうことも珍しくありません。したがって他の症状で眼科受診した際に偶然見つかる場合や人間ドックの眼底検査などで指摘されるパターンが多いのです。定期検査と適切な治療により失明を防ぐことができます。40歳以上の方は、年に一度は眼科受診をお勧めします。

(相模原市医師会 平林 義夫)

### 休日・夜間の急病診療制度の利用

まず、かかりつけの医師に相談してください。かかりつけの医師が不在、近所の医療機関で診療が受けられない方は

☎042-756-9000  
相模原救急医療情報センターへ  
お電話してください。

午前9時 午後1時 午後5時 午前9時

平日	電話受付時間
土曜日	電話受付時間
休日	電話受付時間

#### 市民のみなさんへお願い

- ◇診療可能な医療機関を案内します。
- ◇医療相談・歯科案内は行なっておりません。
- ◇急病で困ったときに利用してください。
- ◇**応急診療**が目的ですので、翌日はかかりつけの医師または近所の医師の診察を必ず受けてください。
- ◇**健康保険証**を必ず提示してください。されない場合は自由診療扱いとなり、費用が高額になります。
- ◇救急車は、生命に危険が生じた患者さんを一刻も早く運ぶためのものです。安易な利用は避けてください。
- ◇歯科の急病については**休日急患歯科診療所** ☎042-756-1501へ(ウェルネスさがみはら2階)
- ◇服用している薬がある場合は、**お薬手帳**もしくは**処方された薬をお持ちください。**



# ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチン

## はじめに

生まれて初めて接種するワクチンは、少し前までは三種混合ワクチン(ジフテリア、百日咳、破傷風：DPT)でした。2013年4月からヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチンが定期接種化され、生後2か月からワクチン接種が開始となりました。

## ヒブとは

ヒブ(Hib)とはインフルエンザ菌 type b(Haemophilus influenzae type b) のことで髄膜炎や敗血症などの重症の感染症を起こしやすい菌です。ちなみに冬場に流行するインフルエンザウイルスとは違うもので、インフルエンザ菌が発見されたときにインフルエンザの原因ではないかと考えられてこの名前が付けました。のちにインフルエンザの原因はインフルエンザウイルスであることがわかりましたが、インフルエンザという名前がそのまま使われています。

## ヒブワクチン

ヒブワクチンは1980年代から開発され、欧米では1990年代から使用されるようになり、重症のヒブ感染症が激減しました。日本では約20年遅れて2008年に導入され、2010年には公費助成が始まり、2013年から定期接種となりました。

## 小児肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌もインフルエンザ菌と同様に髄膜炎や敗血症などの重症の感染症を起こしやすい菌です。肺炎球菌は約90種類の型があります。インフルエンザ菌と異なり重症の感染症を起こしやすい型が決まっていないことが問題です。

## 小児肺炎球菌ワクチン

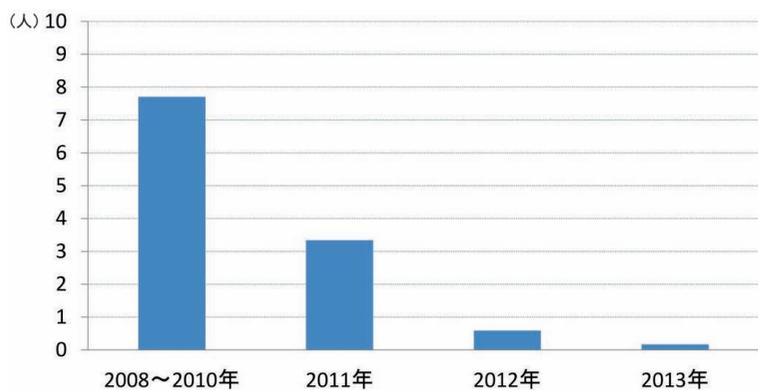
小児用の肺炎球菌ワクチンは重症感染症を起こしやすい型のうち13種類(初めは7種類)をカバーするワクチンです。高齢者に接種するものは23種類をカバーしていますが、子どもに接種しても免疫がつきにくいので、小さな子どもでも免疫がつくように作られたのが小児用肺炎球菌ワクチンです。

小児肺炎球菌ワクチンは欧米では2000年ごろに導入されましたが、日本では10年遅れて2010年に販売開始され、2010年には公費助成が始まり、2013年に定期接種化されました。同年の11月には13種類をカバーするワクチンが用いられることになりました。

## ヒブワクチン、小児肺炎球菌ワクチンの効果

ヒブによる髄膜炎はワクチンが導入される前の2008～2010年では5歳未満の人口10万人に対して7.71人だったものが、導入後の2013年には0.17人と98%も減少しています(図1)。

図1 ヒブ髄膜炎罹患率(5歳未満人口10万人当たり)



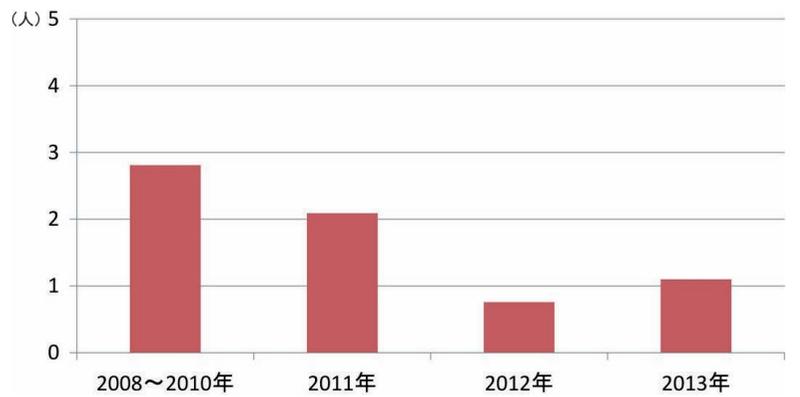
庵原俊昭 他：厚生労働科学研究費補助金 Hib、肺炎球菌、HPV及びロタウイルスワクチンの各ワクチンの有効性、安全性並びにその投与方法に関する基礎的・臨床的研究 平成25年度総括・分担研究報告書

肺炎球菌による髄膜炎はワクチンが導入される前の2008～2010年では5歳未満の人口10万人に対して2.81人だったものが、導入後の2013年には1.10人と約61%も減少しています(図2)。肺炎球菌ワクチンがヒブワクチンに比べて減少の割合が少ないのは、カバーできていない型による感染

症が増えているからです。

肺炎球菌ワクチンでは、今後より多くの型をカバーできるワクチンの開発が望まれます。

図2 肺炎球菌髄膜炎罹患率(5歳未満人口10万人当たり)



庵原俊昭 他：厚生労働科学研究費補助金 Hib、肺炎球菌、HPV及びロタウイルスワクチンの各ワクチンの有効性、安全性並びにその投与方法に関する基礎的・臨床的研究 平成25年度総括・分担研究報告書

## 最後に

ヒブワクチン、小児肺炎球菌ワクチンの導入によって子どもの重症の感染症が著明に減少しています。日本では生後2か月から5歳まで定期接種の対象者となっています。

細菌性髄膜炎のうち、特にヒブによるものは1歳未満に多いため、**生後2か月になったらできるだけ早く接種するようにしましょう。**

(相模原市医師会 野々山 勝人)

## 市民公開講座 緩和ケアをすべてのがん患者さんに

～痛みでできないことや困っていることはありませんか?～

**日時** 平成28年3月5日(土)午後2時～  
**場所** 相模原南メディカルセンター 大会議室  
 相模原市南区相模大野4-4-1  
**講師** 日本赤十字社医療センター 緩和ケア科 的場 元弘 先生  
**申込方法** 電話にてお申込みください。定員となりしだい締切とさせていただきます。  
**申込み先** 相模原市医師会事業課 ☎042-756-1700  
 (受付時間午前9時30分～午後5時30分)

## 子ども予防接種週間のお知らせ

**期間** 平成28年3月1日(火)～7日(月)  
**主催** 日本医師会、日本小児科医会、厚生労働省  
 予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を目的として、上記期間を「子ども予防接種週間」といたしました。  
 期間中、協力医療機関において、通常の診療時間帯に予防接種を受けにくい人々に対し、予防接種を行います。  
**※子ども予防接種週間における協力医療機関のお問い合わせは下記まで**

相模原市医師会事業課 ☎042-756-1700

